



人工知能システムに対する世界の支出額は2023年に約980億ドルに拡大

Japan, 2019年9月18日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社（所在地：東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長：竹内正人、Tel代表：03-3556-4760）は、世界の人工知能（AI：Artificial Intelligence）システムに対する支出額予測を発表しました。[Worldwide Artificial Intelligence Systems Spending Guide](#)によると、AIシステムに対する支出額は、2023年に979億ドルに達する見通しです。これは2019年の支出額375億ドルの2.5倍以上に相当します。2018年から2023年までの予測期間中における年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）は、28.4%と予測されています。

「AI市場は2019年、着実なペースで成長を続け、来年以降もこの勢いが続く見通しです」と、米国IDC Cognitive/Artificial Intelligence Systems リサーチディレクターのデイビッド・シュービメルは述べています。また、「ERP（Enterprise Resource Planning）および製造ソフトウェアから、コンテンツ管理、コラボレーション、そしてユーザーの生産性にいたるまで、広い範囲に及ぶソリューションとアプリケーションで人工知能と機械学習（ML：Machine Learning）が利用されています。AIとMLは現在、ほとんどの企業にとって一番の関心事です。AIが及ぼす破壊的な影響力は、今後10年にわたって産業全体を変貌させていくものとIDCでは予測しています」と述べています。

AIシステムへの支出額が最も大きいと予測される業界は、小売と銀行です。2019年の投資額は、どちらの業界でも50億ドル以上と見込まれています。小売業界における支出額の約半分は、自動顧客サービスエージェント、およびエキスパートショッピングアドバイザーに費やされると予測されます。銀行業界では、自動脅威インテリジェンス / 予防システム、および不正行為分析 / 調査に投資が集中すると予測されます。予測期間中にAIシステムへの大幅な投資が予測されるその他の業界としては、組立製造、プロセス製造、ヘルスケア、専門的サービスがあります。支出の伸びが最も大きい業界は、メディアおよび政府機関であり、5年間のCAGRはそれぞれ33.7%および33.6%と見込まれています。

「AIはプロトタイプの時期をすでに越え、実行と実装の段階に入っています」と、米国IDC Customer Insights & Analysis リサーチマネージャーのマリアンヌ・ダキラは述べています。また、「AIジャーニーを効率よく進めていくにはどうすればいいかという問題に、あらゆる業界の戦略的意思決定者が取り組んでいるところです。銀行、小売、製造、ヘルスケア、専門的サービスを合わせるとAI支出額の半分以上になることから分かるように、進展状況にはばらつきがあります。政府機関、メディア、通信、個人向け

サービスについては、現状の学習曲線にも関わらず、平均より高い5年間のCAGRを示すとIDCでは予測しています」と述べています。

AIシステムへの投資は、引き続き広い範囲に及ぶユースケースによって促進されています。上位3つのユースケースである、自動顧客サービスエージェント、自動脅威インテリジェンス / 予防システム、および自動営業プロセスリコメンデーションを合わせると、2019年における支出額全体の25%を占めると予測されます。その次に続く6つのユースケースは、合わせて今年の支出額の35%と予測されます。2018年から2023年までの予測期間中、成長率が最も高いと予測されるユースケースは、HR (Human Resources) オートメーション (43.3%のCAGR) および医薬品研究開発 (36.7%のCAGR) です。ただし、5年間のCAGRが30%を超えると予測されるユースケースは、その他にも8つあります。

テクノロジー別に見ると、2019年の支出額でシェアが最も大きいのは、サービス (主としてITサービス) と予測されます。これは企業におけるAIプロジェクトの設計・実装にあたって外部の専門知識が必要になるからです。ハードウェアの支出額は、企業におけるAIインフラストラクチャ構築を背景に、2019年の時点ではソフトウェアの支出額をやや上回る見通しです。しかし予測期間の終わり頃には、AIソフトウェアおよびAIソフトウェアプラットフォームの購入額がハードウェアを追い越すと予測されます。ソフトウェア支出額については、36.7%のCAGRが見込まれています。

地域別に見ると、米国は小売と銀行を中心に、予測期間中におけるAI支出額全体の50%以上を占めると予測されています。2番目に支出額が大きい地域は西ヨーロッパで、銀行および組立製造が牽引役となる見通しです。3番目にAI支出額が大きい地域は中国で、小売、自治体、専門的サービスが上位を争うでしょう。5年の予測期間中、最も強力な支出拡大が見込まれるのは、日本 (45.3%のCAGR) および中国 (44.9%のCAGR) です。

[Worldwide Artificial Intelligence Systems Spending Guide](#) は、幅広い非構造化情報の分析に基づいてアドバイザリーサービスの編成、アクセス、提供を行う各種テクノロジーへの支出額を推定しています。このSpending Guideは、9つの地域および32カ国における19の業界を対象に、26のユースケースに関するデータを提供し、AI関連のビジネス機会を数量化しています。ハードウェア、ソフトウェア、サービスのカテゴリーに関するデータも入手できます。市場機会を捉えて効果的な戦略の実施を希望するサプライヤーにとって、この業界に関する他のどんな調査よりも、詳細なセグメント情報とタイムリーなグローバルデータは有益です。

IDC Spending Guideについて

IDC Spending Guideは、主要テクノロジー市場の動向を、地域、産業、ユースケース、バイヤー、テクノロジーの観点から詳細に分析しています。IDC Spending Guideは、ピボットテーブル形式またはカスタムクエリツールによるセルフサービス型サービスとし

て提供され、ユーザーはデータのトレンドや関係を見ることによって、各市場に関する有益な情報を簡単に抽出することができます。

※本プレスリリースは2019年9月4日の米国IDC（マサチューセッツ州 フラミンガム）による発表の日本語訳をベースとしてします。

About IDC

IDC is the premier global provider of market intelligence, advisory services, and events for the information technology and telecommunications industries. IDC helps IT professionals, business executives, and the investment community make fact-based decisions on technology purchases and business strategy. Over 775 IDC analysts in 50 countries provide global, regional, and local expertise on technology and industry opportunities and trends. For more than 40 years, IDC has provided strategic insights to help our clients achieve their key business objectives. IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. You can learn more about IDC by visiting <http://www.idc.com/>.

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at www.idc.com.

All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan
jp-press@idc-japan.co.jp
+81-3-3556-4768